

しもかわ農業委員会だより

発行：下川町農業委員会

第五六号

令和七年一月一日

新春を迎えて



下川町農業委員会
会長 及川 幸雄

新年あけましておめでとうございます。
令和7年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の下川町の農業生産を振り返りますと、
平年より高温で推移しましたが、極端な高温
や大雨、長雨もなく、全体として収穫量は平
年又は平年並み以上で、価格も堅調に推移し
生産額は平年、平年並み以上となりました。
一方、農産物の価格は生産コスト上昇分を価
格転嫁できない状態が続いており農業所得の
減少は顕著に表れてきております。

こうした状況の中、昨年は「農政の憲法」
とされる「食料・農業・農村基本法」が25年
ぶりに改正され、これに沿った基本計画が今

春に改正されます。価格転嫁や食料安全保障
の観点から農家所得の向上がどのような政策
となるのか、注視しながら対応していかなく
ればならないと考えております。

現在、下川町の農業は水田活用の直接支払
交付金の見直しに伴う畑地化事業が進んでお
り、昨年までで約400ヘクタールが畑地化
され、交付金廃止後の生産性向上を目的とし
た畑作振興策の施策の実施、離農や生産性の
低い農地の耕作放棄及び遊休農地化が懸念さ
れる約350ヘクタールの防止・解消策等、
基幹産業としての農業を維持していく施策を
進めていくことが急務であると考えておりま
す。

農業委員会として、将来の地域農業のある
べき姿を実現するため、これまで以上に農業
者とともに考え、活動を強化していく所存で
おります。

皆様方のより一層のご協力とご意見をお願
いし新年の挨拶といたします。

謹賀新年

下川町農業委員会

会 長	及川 幸雄
会長代理	三島 卓
委 員	谷口 真帆
	押田 すみえ
	吉田 公司
	表 藤 弘 昭
	佐藤 一 彰
品 地	一 彰
事務局長	高屋 勝 英
局長補佐	又村 寛 樹

農業委員会総会は、毎月25日前後に開催

農地の賃貸借、売買や農地転用を希望する
場合など、農地に関するものは農業委員
会の審議・決定が必要になります。

総会は、毎月25日前後に開催されます
ので、当該月の概ね10日前後までに事務
局へ申請書等を提出してください。

道内視察研修レポート

令和6年11月14日～15日の一泊二日の日程で道内の視察研修を実施いたしました。今回は、「ホクレン農業総合研究所管農支援センター訓子府実証農場」と「美幌みらい農業センター」を視察しました。参加された委員の研修レポート以下にご紹介いたします。



会長

及川 幸雄

ホクレン訓子府実証農場は実規模レベルで今の時代の課題に対応すべく技術の実証に取り組み、得られた技術情報を公開・発信している機関である。

1 高機能バイオ炭

バイオ炭に微生物を定着させた資材を土壌に混入した、玉ねぎ・ホウレンソウの栽培実証では、玉ねぎでは球重、ホウレンソウでは株重の増加傾向はみられたが、混入量の割合、散布時の飛散、混入コストと作業工程の増加等の費用対効果などまだ十分に確認されていない技術と言える。カーボンオフセット、J-クレジット等、国のみどりの食料システムへの取り組みは期待できる。

2 タイストール用搾乳ロボット

道内の約6割を占めるタイストール牛舎に

おける搾乳作業の省力化を目的とした実証で、24時間無人で行えるが、導入には牛舎の内装構造に制限があり、本体と牛舎改修費で約5500万円、ランニングコスト年120万円等を考慮すると、60頭搾乳規模の経営としては現在の情勢を考えると導入はかなり難しいと思われる。



会長代理

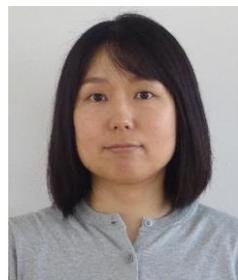
三島 卓

美幌みらい農業センターでの取り組みを紹介して頂きました。

農業経営者育成事業は、平成15年から、新規就農者15組の育成を行い、新規就農優良農業経営に5人受賞と優秀な実績がある。

1年目は農業センターで基礎研修を行い、2～3年目まで就農先農家で実習を行い、基本的には、離農を考えている農家と募集した研修生の営農プランや考え方をマッチングして農地・住宅・農機など一括譲渡して事業継承する形で、就農者は営農技術の他に、農地や機械の癖など覚えることができ、受入農家も資産一括譲渡ができる。地域の農家戸数維持ができ、多様な人材が入ることで活性化するなど色々なメリットがある。

美幌町も本町と同じ様な問題を抱えていて、受入農家と就農希望者のマッチングが難しく、資材等の高騰で新規就農に金銭的な負担が大きくなっている。



委員

谷口 真帆

美幌町では新規就農者育成事業の取り組みのなかで『経営継承就農方式』の推進をしている。

離農者から農地・農機具・住宅・農舎等を居抜きで継承する『経営継承就農方式』は理想的な新規就農法と考えており、これまでに5組の就農実績がある。(新規就農者15組中)

近年の物価・資材費高騰等もあり、施設栽培での新規就農が中心の下川町においても理想的な就農法と考える。今回その他にも美幌みらい農業センターにて学ばせていただいた事を参考に、地域農業の発展を図っていきたい。



委員

吉田 公司

美幌みらい農業センターで新規就農者育成事業について意見交換を行った。

美幌でも、過去には新規就農者の実績作りを急ぐあまり、選定基準が甘いなどの問題があり、定着に至らずご苦労された経験から、現在では①優良農業者の第三者継承を第一に

進めること、②3年間の研修を基本とし、現場でのすべての仕事を経験させていること、の二点が印象に残った。下川においても昨今の経済環境の大変化に鑑み、第三者継承を基本にすべきであると思った。

そこで、第一に関係機関がそれぞれの役割を今一度明確にすること。第二に就農者の確実な定着に向けて各機関ができることを適切なタイミングで行うため、連携・連絡を密にすること。第三に3年間の研修を基本とし、就農後の自立を確実なものにすること。以上が重要であると改めて再認識した。



委員
表 朋 昭

タイストール（繋ぎ牛舎）用搾乳ロボットの実証試験を研修してきました。

この搾乳ロボットを実証試験する背景には、特に家族経営規模の酪農家において後継者不足や労働負担による離農が後を絶たず営農継続に向けた技術が求められているということがあります。試験場では搾乳作業の軽減により、その時間を牧草収穫作業にあてるなど良質粗飼料の確保につながる事や重労働が減り体への負担が楽になる事など、普及を促すことにより道内約6割を占めるタイストール牛舎における省力化、営農継続に寄与でき、国内では10台程が稼働して、導入した農場ではとても評判が良いという話を伺いました。一方で、ほとんどの牛舎では大幅な改修工

事が必要で、そのコストを考えると導入は難しいため、稼働台数が伸びない一番の理由ではないかと感じました。国産メーカーがこの様な搾乳ロボットを開発することを期待したいです。



委員
品 地 一 彰

この度の研修では、訓子府実証農場での高能バイオ炭について学んだ。持続可能な農業を目指した取り組みであり、国の推進する『みどりの食料システム戦略』にも一致している。

高能バイオ炭とは、土壌改良資材であり、バイオ炭に微生物を定着させた資材で、炭は多孔質な為、微生物が定着し易い事が特徴である。期待される効果は多岐に渡り、病原性微生物の占有を防ぐ事、土壌の保水性、透水性の向上、保肥力の向上、土の断粒構造促進などのメリットがある。

訓子府町では、もみ殻、玉ねぎ残渣等を炭に利用しているが、本町では、もみ殻、バイオマス発電からの燃焼済み木炭が望ましいと考える。本来は廃棄すべき資材を土壌改良資材へ変換、土へ戻すことが好循環を生み、地産地消の有機化合物となる。

この取組は、下川町のSDGsに則した考えであり、今後の下川町の農業に影響を与える事になる、有意義な研修となった。

**令和7年度下川町農地等利用最適化
推進施策に関する意見書を提出**

令和6年12月12日に、及川会長、三島代理出席により田村町長へ意見書を提出しました。

これからの下川町農業の発展のために必要な施策を意見としてまとめています。次に概要を紹介いたします。

一 農地利用最適化の推進について

① 畑作振興

昨年の意見書を受け、農業関係者が情報交換会を開催し、本町農業の将来への危機感を共有しました。今後、畑作の生産性向上には、農地の団地化、新たな輪作体系や技術の確立、生産所得の確保が必要であり、振興のための指針を示す必要があります。

② 新規就農対策

耕種では、ハウス建設費の高騰により従来の受入体制では困難となっており、既存資産を有効活用できる仕組みが求められることから、農業用ハウスや農地を農地所有適格法人等が一時保有することで営農の流動性を高め、新規就農者の受け入れを促進する必要があります。

二 農業振興について

生産資材の高騰が価格に転嫁できず、農業

所得が減少しており、持続的な営農が困難な状況です。このため、新規制定の産業振興基本条例に基づき、作物別の経済性指標を具体的に把握し、効果的な支援を検討すべきです。また、先進地技術研修や先端技術導入農家への支援拡大など柔軟な制度構築が必要です。



及川会長から田村町長へ
意見書を提出する様子

新規就農者紹介

令和5年11月に下川町で新規就農し、農業に取り組んでいる就農農家をご紹介します。

◆三の橋（酪農業で就農）

菊島 永 詞さん
優里花さん

●下川町で就農しようと思ったきっかけは？

長野県の農業大学校で酪農の仕事をしていましたが、自分で牧場をしたいという気持ちにはもともとあり、就農は考えていました。なかなか条件が合わず、北海道まで条件を広げたときに下川町に電話し、担当者の対応も早く、就農先の牧場主のスピード感もあり、視察や体験も早めに行けたので、下川町への移住を決めました。

●研修中に困ったことは？

もともと酪農の仕事をしてきたこともあり、特に問題は感じませんでした。居抜きというスタイルで就農できたこと、営農スタイルがマッチングしていたことで、もともとの牧場主のノウハウを受け継ぐことができ助かりました。

●今後の目標は？

永詞さん…現状の経営を安定させ、安全第一で経営していくこと。将来的には環境整備もしつつ乳質を良くしていきたいです。



優里花さん…もともとガーデンングの仕事をしており、酪農とは離れますが、ガーデンナーとしての仕事も伸ばして、小さくても事業としてやれたらと思っています。

編集後記

あけましておめでとうございます。寒さが厳しい季節、皆さんいかがお過ごしですか。

温暖化で平均気温が上がっているとはいえ、下川の冬は相変わらず寒いですね。たやはり一年通して温暖化の影響はあるのでしょう、冬の様子も少し変わったように感じます。湿雪が増えて昨年も何度か建物の雪下ろしをしました。私は雪下ろし作業中にヒヤリとした経験があるのですが、毎度の事と慣れてしまうと大変危険な作業なので、皆さんも今一度安全マニュアルを確認してみてくださいね。

しもかわ農業委員会だよりを最後までお読みいただきありがとうございます。本年もどうぞよろしく願います。

(谷口 真帆)



編集委員

谷口 真帆
吉田 公司
品地 一彰

「農業委員会だより」
は下川町Webサイトで
も公開しています。

